

農林水産省生産局 2013. 麦及び大豆生産における雑草の発生・被害の実態調査について. <http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/info/pdf/zassou-tyousa.pdf>  
 須藤健一ら 1998. 兵庫県における水田雑草発生状況. 兵庫農技研報 (農業) 46, 5-16.  
 住吉正 2008. アゼガヤ等田畑共通雑草の九州地域の水田作地帯における発生状況. 九州の雑草 38, 8-11.  
 住吉正・保田謙太郎 2011. 帰化アサガオ類

に対する各種除草剤の防除効果. 日作九支報 77, 47-50.  
 山口県農林水産部 2011. 山口県大豆栽培技術指針. pp11 [http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp\\_open/a173000/00000008/daizusaibaigijyutusiryoushi.pdf](http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a173000/00000008/daizusaibaigijyutusiryoushi.pdf)  
 山口県農林水産部 2014. 平成 25 年度米・大豆・麦生産流通改善対策資料. [http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp\\_open/a173000/00000015/H25seisan.pdf](http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a173000/00000015/H25seisan.pdf)

pdf  
 保田謙太郎・住吉正 2010. 北部九州の大豆畑への帰化アサガオ類 (*Ipomoea* spp.) の侵入状況. 雑草研究 55, 183-186.  
 保田謙太郎 2012. 石川県から青森県までの日本海沿岸地域における帰化アサガオ類 (*Ipomoea* spp.) の分布. 雑草研究 57, 123-126.



ナズナ  
 (薺・ぺんぺん草・貧乏草)

(公財)日本植物調節剤研究協会  
 兵庫試験地 須藤 健一

アブラナ科ナズナ属の越年草で、秋に芽を出し、ロゼットで冬を越し、早春から花を咲かせる。無限花序で、花序の下部は果実ができていくが先端では次々と花芽が形成され開花を続ける。

「春の七草」の一。万葉集の「籠もよ、み籠持ち、掘申もよ、み掘申持ち、この岳に菜摘ます兒、家聞かな、告らさね、そらみつ大和の国は、おしなべてわれこそ居れ、しきなべてわれこそ座せ、われにこそは告らめ、家をも名をも (巻1, 1)」にある「菜」や、古今集の「君がため 春の野に出でて 若菜摘む 我が衣手に 雪は降りつつ (巻1春, 21)」の「若菜」が「なずな」ではないかと思うのだが。春を迎えたばかりの立春のころ、野にある「菜」や「若菜」はまだそんなに多くはない。歌に「なずな」として読まれるのは鎌倉時代頃からになる。

今年の正月、Y県に住むSさんからこんな話を聞いた。正月7日、七草粥の前日に、「とうどのとりが わたら

ぬさきに・・・」と呪文を唱えながら七種を刻んでおいて、7日の朝からお粥を炊いた。祖母がずっとそうしていたので自分もそうしているのだ、と。

筆者も、母に七種粥を炊いてもらった記憶はあるが、残念ながら呪文の記憶はなかった。が、この呪文、全国各地にあるようである。大方は、「七草なずな 唐土の鳥が 日本の国に 渡らぬ先に・・・」であり、呪文を唱えながら、まな板の上で、音を立てて七草を刻んだり、すりこ木でまな板をたたいたりするそうである。音を立てて鳥を追い払う鳥追いの囃し歌とも、また、わらべうたとも。

歌の記憶はないが、音を立てながら七草を刻むということで、遠い昔を思い出した。母が、七草は音を立てて刻むのだ、と言っていたのを。その時の七草には、少しばかりの青菜とカブかダイコンが入っていたのだろうと思う。「七草なずな」と歌い出すが、母は「若菜」である「なずな」を摘みに出かけていたのであろうか。